

第22回神戸市みちの懇談会（議事要旨）

日 時 平成26年7月15日 午前9時26分～11時30分

場 所 神戸市役所2号館 401.402会議室

1. みちづくり計画の評価・進行管理について

- ・2020年には、国土交通省が外国人観光客を2,000万人にしようとしているとともに高齢者も3,400万人を越す。人口の半分が移動情報障害者である可能性も考えられるため、ユニバーサルデザインをぜひ早めに取り組んでほしい。

2. 委員講演「計画と評価」について

- ・神戸市のオリジナリティやあり方と、リソース（予算や労働力）は限られているというポイントをおさえ、集中して大切なものを計画に位置づけることが重要である。
- ・公共事業は効率的かつ衡平的でなければならない。
- ・計画を進める中で、目的が短期的な目的へ転移し、短期的な意思決定に陥りがちであるため、このような委員会や懇談会で目的の転移がおこっていないか長期的な視野に立って確認することが必要である。
- ・みちづくり計画においては、衡平性を保つために空間の情報が必要不可欠である。
- ・CO2削減という目標は、環境面以外にも公共交通あるいは道路の有効利用等という視点からも、非常に良い。

3. みちづくり計画の改定に向けて

- ・それぞれの場所の空間特性に応じ、そこで何が必要とされているのかということを見なければならない。場所ごとに重点を置くべきものを明確にする必要がある。
- ・現在のアウトカム指標に加えて、例えば環境であればCO2削減や緑化などの指標を検討した方が良い。
- ・利用者ニーズについて、例えば医療関係者や消防、物流、事業者の方のニーズの把握も必要ではないか。
- ・ユニバーサルデザインの視点に、子育て、子供の視点や三世代で来られるようにすれば、にぎわいづくりにもつながっていくと考えられる。